

J A C S

NEWSLETTER

日本消費者行動研究学会ニューズレター

第8巻第2号

発行日 2000年10月20日

発行 日本消費者行動研究学会事務局

第21回消費者行動研究コンファレンス

秋の消費者行動研究コンファレンスの開催日程とその概要が下記の通りに決定いたしましたのでご案内申し上げます。

第1日目に、研究報告と懇親会、第2日目に研究報告と統一論題でのシンポジウムを予定しております。

開催日程決まる!

11月11日・12日東京で

統一論題:消費と流通のインターフェイス

- 日時: 2000年11月11日・12日(土・日)
- 会場: 専修大学 生田校舎(神奈川県 川崎市)
- 日程:
- | | | |
|-----|---------------|------------|
| 11日 | 09:00 - 09:25 | 受付 |
| | 09:25 - 09:30 | 開会の辞 |
| | 09:30 - 12:45 | 自由論題研究報告 |
| | 14:00 - 17:30 | 統一論題研究報告 |
| | 17:30 - 19:30 | 懇親会 |
| 12日 | 10:00 - 12:00 | 統一論題研究報告 |
| | 13:30 - 14:15 | 会員総会 |
| | 14:30 - 16:00 | 統一論題シンポジウム |
| | 16:00 - 16:05 | 閉会の辞 |
- 費用: 参加費 3,500円(会員外は 5,000円) 懇親会費 6,500円
- 申込み: 会員の方は別途お送りする返信用葉書かファックス用紙、または e-mail(jacs@jacs.gr.jp)でお申し込みください。
(会員以外で参加をご希望の方は、最終頁の申込書に氏名・連絡先等を明記の上、事務局宛に郵便、FAX または e-mail にてご連絡ください。)

統一論題 『消費と流通のインターフェイス』 のねらい

高橋郁夫（慶應義塾大学）

20世紀最後のコンファレンスの統一論題は、上記のものとなった。売手市場から買手市場への変化、バブル崩壊による消費の低迷と低価格化現象、電子商取引や流通イノベーションの進展、生産・流通・消費を結ぶネットワークや関係性の構築、経済的規制（大店法）から社会的規制（大店立地法）への流通政策の変更、地球環境問題を契機とした循環型社会の構築など、近年、消費と流通の接点における話題には事欠かないようである。言うまでもなく、これらをテーマとする研究への社会的要請は急速に高まりつつある。しかしながら、このように豊富な題材を前にして、我々が本当に取り組むべき問題が何であり、また、そうした問題に対し、いかなる視点や研究方法が存在するかについて、まとまった議論はあまりなされていないように思われる。

消費者行動研究コンファレンスが開催されるようになって約10年の歳月が流れた。その間、会員の研究成果は『消費行動研究』という形で世に問われるようにもなった。今回、新たに流通との関係から消費を捉えながら、具体的研究課題やその方法について多角的に議論することは、上述のような社会的要請に答えるだけでなく、消費者行動研究における理論的体系化にも寄与するものと確信する。もちろん、多岐にわたる最近の話題をすべて網羅することは、時間の関係で困難である。しかし、5組から成る今回の統一論題報告は、いずれも来るべき21世紀において重要かつ発展性の高い研究領域と方法を扱っている。しかも、初の試みとしてお願いしたコメンテータの方々は、いずれもそれぞれのテーマについてのエキスパートである。そして、それらの研究の関連性や将来展望については、さらにシンポジウムで活発な議論が展開されることを期待したい。

最後に、本統一論題におけるプログラム作成にあたり、ご協力下さったすべてのの方々にこの場をお借りして心から感謝致したい。

流通変革と消費者の行動

山本昭二（関西学院大学）

バブル崩壊以降の流通の変化は静かに、しかし着実に私たちの周りを変えてきている。今回のシンポジウムにおいて討議される「消費と流通のインターフェイス」は、流通研究者だけではなく消費者行動の研究者にとっても古くて新しい問題を提起している。思い返せば、店舗選択や店舗内行動は消費者行動研究の中でも買い物行動の中心的な課題であった。ただし、現在の流通研究は、店頭よりもバックヤードにその関心があるようだ。SCMやPOSシステムなどどちらかといえば、消費者とは離れたところでの技術革新に興味が集中している。

おりしも、ダイエーがセブンイレブンに売上高で抜かれるというニュースが流れた。大型店の隙間を埋めるために開発されたこの業態が日本一になるとは、誰も予想しなかつただろう。また、ユニクロがこれだけの成長をとげると予想できた人がいるだろうか。こうした業態の成功に対して、セブンイレブンは便利さが成功の鍵だった。ユニクロは低価格が、不況のさなかの消費者のマインドに受けたからだと解説する向きもある。

こうした説明は簡単で分かりやすいかもしれないが、消費者行動研究の立場からはすぐに納得できるわけではない。似たような戦略を取った企業は他にもあったし、低価格なら100円ショップもある。

こうした安易な説明は、消費者が店舗に足を踏み入れたときに感じる感動や喜び、購入したいと感じる雰囲気などを作り上げるために行っている様々な戦略や戦術に無頓着だと言わざるを得ない。

店舗作りは流通企業にとっては製品開発である。その力の衰えは、企業の存亡を左右するだけでなく、消費書の消費生活にも少なからず影響を与えるだろう。今回のシンポジウムでは、パネリスト側からの問題提起とともに、フロアからの活発な意見を期待している。是非、足を運ばれて参加していただきたい。

本学会への入会を希望される方は、本頁下部の該当項目に☑をし、FAX ないしは郵便にて事務局宛にご返信頂くか、ご希望の項目を明記の上 e-mail にてご連絡ください。折り返し、会員募集案内(設立趣意書、学会会則、会員リスト、入会申込書、等)をお送りさせていただきます。

- [学術会員]** 消費者行動の研究・教育に従事する大学の専任教員、大学院在籍者(在籍経験者を含む)、およびそれに準ずる者(文部省が学術研究団体と認める学会の正会員、大学の非常勤講師としての教暦を有する者、等)。但し、学術会員 2 名の推薦が必要。
- [賛助会員]** 本学会の趣旨に賛同する法人および個人。

- [学術会員]** 5,000 円(但し、大学院生の場合は、2,000 円に減免)
- [賛助会員]** 個人会員 1 口 5,000 円 法人会員 1 口 50,000 円

会員募集案内(入会申込書)の送付を希望します。
第 21 回コンファレンスへの参加を希望します。(懇親会: 参加 不参加)

お名前: _____ ご所属機関: _____

ご住所: _____

TEL: _____ FAX: _____

e-mail: _____

(事務局) 〒662-8501 西宮市上ヶ原1-1-155
関西学院大学商学部 マーケティング研究室(山本昭二)
TEL: 0798-54-6375 FAX: 0798-51-0903
Email: sjyama@cvn.bai.ne.jp

(事務取扱) 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-1-39
恵比寿プライムスクエアタワー10F (SPSS 内) 担当: 村田
TEL: 03-5466-5520 FAX: 03-5466-5528
Email: jacs@jacs.gr.jp

* ご入会希望やコンファレンスへの参加お申込み、またお問合せ等は上記までお願い申し上げます。
